



# Sun Fire™ X2250 サーバー 設置マニュアル

---

Sun Microsystems, Inc.  
www.sun.com

部品番号 820-5092-10、改訂 A  
2008 年 7 月

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている製品に使用されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIXは、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Solaris, Sun Fire, Sun Solve, Sun Service, SunVTS は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品のCPUの修理または1対1での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的でCPUを使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. détient les droits de propriété intellectuelle relatifs à la technologie incorporée dans le produit qui est décrit dans ce document. En particulier, et ce sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains listés à l'adresse <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets supplémentaires ou les applications de brevet en attente aux Etats - Unis et dans les autres pays.

Cette distribution peut comprendre des composants développés par des tierces parties.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris, Sun Fire, Sun Solve, Sun Service, et SunVTS sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Microsoft sont est marques de fabrique ou des marques déposées de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Windows est une marque de fabrique ou une marques déposée de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Intel est une marque déposée ou marque déposée d'Intel Corporation ou ses filiales aux Etats-Unis et à d'autres pays. Le logo Adobe est une marque déposée de Adobe Systems, Incorporated.

L'utilisation de pieces detachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou a l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément a la législation américaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder a des mises a jour de produits est rigoureusement interdite.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFACON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに v

## 1. Sun Fire X2250 サーバーハードウェアのセットアップ 1

安全上の注意 1

設置プロセスの計画 2

パッケージ内容のリスト 3

スライドレール (オプション) によるサーバーのラックへの取り付け 3

ケーブルの接続 4

▼ ケーブルを接続する 4

サーバーの電源投入と電源切断 6

▼ スタンバイ電源を供給して、サービスプロセッサの初期構成を行う 6

▼ 主電源モードで電源を投入する 7

▼ 主電源モードで電源を切断する 8

セットアップのトラブルシューティングとサポート 8

Sun Fire X2250 サーバーのセットアップのトラブルシューティング 9

サポートの連絡先 11

## 2. Sun Fire X2250 サーバーソフトウェアのセットアップ 13

Integrated Lights Out Managerの概要 14

ILOM サービスプロセッサへの接続 16

- ▼ シリアル接続を使用して ILOM に接続する 16
- Ethernet 接続を使用した ILOM への接続 17
  - 動的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成 18
    - ▼ DHCP を使用して ILOM Ethernet 設定を構成する 18
  - 静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成 21
    - ▼ Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを構成する 21
    - ▼ CLI を使用して静的 IP アドレスを構成する 22
    - ▼ BIOS セットアップユーティリティを使用して静的 IP アドレスを構成する 23
- プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ 24
- 3. プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの構成 25
  - 開始前のご注意 25
    - インストールのためのワークシート 26
    - コンソール出力の選択 29
  - プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの構成 30
    - ▼ サービスプロセッサの IP アドレスを使用してサーバーに接続する 31
    - ▼ 端末プログラムを使用してサーバーに接続する 33
  - Solaris 10 オペレーティングシステムのユーザー情報 34
    - Solaris 10 OS のユーザーマニュアルへのアクセス 34
    - Solaris 10 OS ソフトウェアのダウンロード 34
    - Solaris 10 OS のトレーニング 34

# はじめに

---

本書『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』では、サーバーのラックへの取り付け、サービスプロセッサの接続、およびプリインストールされた Solaris™ オペレーティングシステムの構成手順を説明します。

---

## UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX® コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの構成などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のマニュアルを参照してください。

- システムに付属のソフトウェアマニュアル
- 次の場所にある Solaris™ オペレーティングシステムのドキュメント  
<http://docs.sun.com>

---

# シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

---

---

# 表記上の規則

書体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第6章を参照してください。 これらはクラスオブションと呼ばれます。これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

---

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

## 関連ドキュメント

下の表に記載されているドキュメントは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com>

このサイトで、Sun Fire™ X2250 サーバーを検索します。

**注** – ダウンロード (またはオンラインでの表示) が可能な製品ドキュメントの最新バージョンは、ドキュメントの部品番号の下二桁の数字で識別できます (例: 820-xxxx-XX)。

タイトル	コンテンツ	部品番号	形式
Sun Fire X2250 Server Product Notes (Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって)	サーバーに関する最新情報。	820-5107	PDF 版 HTML 版
Sun Fire X2250 サーバーご使用の手引き	サーバーのセットアップに関する基本的な設置情報。	820-5097	PDF 版 印刷版
Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル	サーバーのセットアップに関する詳細な設置情報。	820-5092	PDF 版 HTML 版 印刷版
Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)	Solaris、Linux、Windows Server の各オペレーティングシステムのインストール手順。	820-5102	PDF 版 HTML 版
Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)	Linux および Windows Server オペレーティングシステム用の Sun Installation Assistant を使用したインストールの手順。	820-3357	PDF 版 HTML 版
Sun Fire X2250 Server Service Manual (Sun Fire X2250 サーバーサービスマニュアル)	サーバーの保守およびアップグレードに関する情報と手順。	820-4593	PDF 版 HTML 版
Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)	ILOM をサポートするサーバーおよびサーバーモジュールに共通の ILOM の機能と作業。	820-1188	PDF 版 HTML 版

タイトル	コンテンツ	部品番号	形式
Sun Integrated Lights Out Manager Supplement for Sun Fire X2250 Server (Sun Fire X2250 サーバー用 Sun Integrated Lights Out Manager 補足ドキュメント)	Sun Fire X2250 サーバーに固有の ILOM 情報。	820-5112	PDF 版 HTML 版
Sun Fire X2250 Server Safety and Compliance Manual (Sun Fire X2250 サーバー安全の手引き)	Sun Fire X2250 サーバーのハードウェアの安全とコンプライアンスに関する情報。	820-4595	PDF 版
Important Safety Information for Sun Hardware Systems (Sun ハードウェアシステム安全上の注意)	Sun のハードウェアシステムに共通の、各国語で記されたハードウェアの安全とコンプライアンスに関する情報。	816-7190	印刷版

## サポートとトレーニング

分野	URL
サポート	<a href="http://www.sun.com/support/">http://www.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://www.sun.com/training/">http://www.sun.com/training/</a>

## 製品のアップデート

ダウンロードが可能な、Sun Fire X2250 サーバー用の製品アップデートについては、次の Web サイトをご覧ください。

<http://www.sun.com/download/>

該当するハードウェアドライバの節を見つけ、「X64 Servers & Workstations (X64 サーバーおよびワークステーション)」をクリックします。Sun Fire X2250 サーバーのサイトには、ファームウェアとドライバのアップデートと共に、CD-ROM .iso イメージが用意されています。



---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑念的な損害や損失についても責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、ドキュメントのタイトルと部品番号を記載してください。

Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル、部品番号 820-5092-10



# Sun Fire X2250 サーバーハードウェア のセットアップ

---

この章では、Sun Fire X2250 サーバーハードウェアの設置方法について説明します。  
この章には、次の項目が含まれています。

- 「安全上の注意」(1 ページ)
- 「設置プロセスの計画」(2 ページ)
- 「パッケージ内容のリスト」(3 ページ)
- 「スライドレール (オプション) によるサーバーのラックへの取り付け」(3 ページ)
- 「ケーブルの接続」(4 ページ)
- 「サーバーの電源投入と電源切断」(6 ページ)
- 「セットアップのトラブルシューティングとサポート」(8 ページ)

---

## 安全上の注意

Sun Fire X2250 サーバーに関する安全上の注意事項については、次のマニュアルを参照してください。

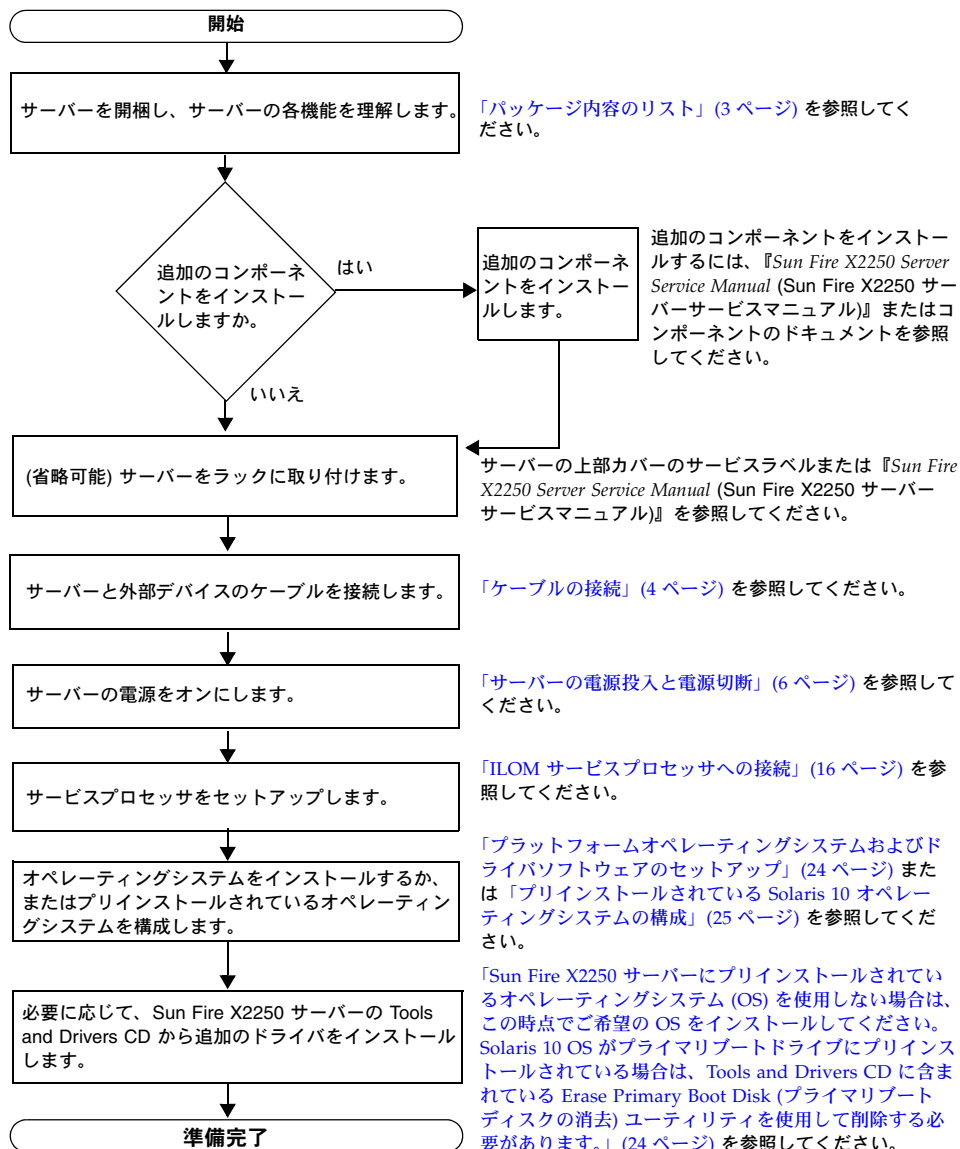
- 『*Important Safety Information for Sun Hardware Systems* (Sun ハードウェアシステム 安全上の注意)』(816-7190): 出荷品一式に入っているハードコピーマニュアル。
- 『*Sun Fire X2250 Server Safety and Compliance Guide* (Sun Fire X2250 サーバー安全の手引き)』(820-4595): 次の URL から Sun Fire X2250 サーバーのドキュメントページに移動してオンライン版を入手できます。

<http://docs.sun.com/>

# 設置プロセスの計画

サーバーの設置プロセスを計画するには、[図 1-1](#)のフローチャートを利用してください。

図 1-1 Sun Fire X2250 サーバーの設置プロセス



---

## パッケージ内容のリスト

すべてのサーバーコンポーネントを慎重に開梱します。Sun Fire X2250 サーバーの同梱品は次のとおりです。

- Sun Fire X2250 サーバー
- Sun Fire X2250 サーバーアクセサリキット (オプション): 次のドキュメントとメディアを含みます。
  - 『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』 (820-5092)
  - ライセンス、安全上の注意、および登録に関する追加のドキュメント
  - Sun Fire X2250 サーバーの Tools and Drivers CD (ドライバと追加のソフトウェアを含む)
- ラックマウント/ケーブル管理キット (オプション)  
オプションの電源コード、キーボード、およびマウスは、その他のアイテムとは別に梱包されています。

---

## スライドレール (オプション) によるサーバーのラックへの取り付け

Sun Fire X2250 サーバーの上部カバーに貼付されているサービスラベルには、別注のスライドレールおよびケーブル管理アームを使ってサーバーを 4 ポストラックに取り付ける手順が記載されています。詳細な手順は、次の URL で公開されている『*Sun Fire X2250 Server Service Manual* (Sun Fire X2250 サーバーサービスマニュアル)』(820-4593)にも記載されています。

<http://docs.sun.com>

Sun Fire X2250 サーバー用のスライドレールは、次の規格を満たすさまざまなラックに対応しています。

- 前後左右で固定する形式の 4 ポストラック。2 ポストのラックにはマウントできません。
- 1U の幅と高さが ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 に適合すること。
- 前方と後方の取り付け面の間隔が 610 ~ 915 mm (24 ~ 36 インチ) であること。

- 前方の取り付け面とキャビネット前面ドアとの間に 25.4 mm (1 インチ) 以上の間隔があること。
- ケーブル管理アームを取り付ける場合は、前方の取り付け面とキャビネット後面ドアとの間に 800 mm (31.5 インチ) 以上の間隔があること。ケーブル管理アームを取り付けない場合は 700 mm (27.5 インチ) でかまいません。
- 前方の取り付け面と後方の取り付け面との間にある構造サポートとケーブルスルーとの距離が 456 mm (18 インチ) 以上であること。



---

**注意** – サーバーは必ず下から先にラックへ取り付けてください。上から順に取り付けるとラックが不安定になり、転倒する危険が生じます。転倒防止機構を装備しているラックであれば、サーバー取り付け時に活用してください。

---



---

**注意** – ラック内の温度がサーバーの最大周辺温度を超えないようにしてください。ラック内に取り付けられているすべての装置の全体的な空気循環の要件を考慮して、装置が指定の温度範囲内で動作するようにしてください。

---

## ケーブルの接続

コネクタの位置については、[図 1-2](#) および [表 1-1](#) を参照してください。

### ▼ ケーブルを接続する

次の手順に従って、サーバーと外部デバイスを接続します。

1. シリアルヌルモデムケーブルをシリアルポートに接続します。  
デフォルトのシリアルポート速度は、フローコントロールなしの 9600 ボーです。
2. 必要に応じて、Ethernet ケーブルを RJ-45 LAN ギガビット Ethernet コネクタに接続します ([図 1-2](#) を参照)。  
Ethernet (LAN) ポートに関する次のガイドラインに留意してください。
  - ネットワーク管理 (NET MGT) Ethernet ポートまたはシリアル管理/RS-232-F RJ-45 シリアルポートは、サーバーの管理とネットワークアクセスのために使用します。  
リモートシステム管理のためのサービスプロセッサのセットアップの詳細については、「[Sun Fire X2250 サーバーソフトウェアのセットアップ](#)」(13 ページ) を参照してください。

- 2基のギガビット Ethernet ポート (LAN-0 と LAN-1) はプライマリネットワーク インタフェースコントローラ (NIC) です。これらを、オペレーティングシステムとドライバのネットワークインストールで使用する必要があります。

3. さらに外部デバイスがある場合は、サーバーのその他のコネクタに接続します。

図 1-2 背面パネル

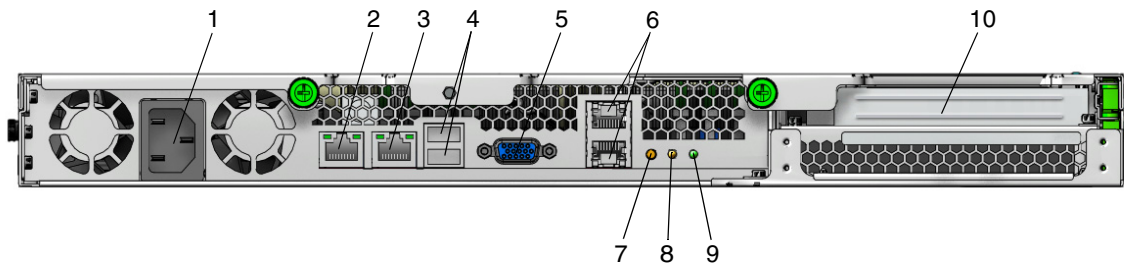


表 1-1 背面パネル

ラベル	コネクタ/スロット	ラベル	コネクタ/スロット
1	AC 電源コネクタ	6	ギガビット Ethernet ポート (LAN-0 (上)、LAN-1 (下))
2	ネットワーク管理 (NET MGT) Ethernet ポート	7	位置特定 LED
3	シリアル管理 (SER MGT)/RS-232-F RJ-45 シリアルポート	8	障害 LED
4	USB 2.0 コネクタ (2)	9	電源 LED
5	内蔵 HD15 ビデオコネクタ	10	PCI Express スロット

---

## サーバーの電源投入と電源切断

この時点では、サービスプロセッサの初期構成を実行できるように、サーバーにスタンバイ電源のみを供給する必要があります。この節では、参考までに主電源モードを投入する手順とシャットダウンする手順についても説明します。

### ▼ スタンバイ電源を供給して、サービスプロセッサの初期構成を行う

この手順を使用して、初期構成の前にサービスプロセッサ (SP) にスタンバイ電源を供給します。



---

**注意** – 必ず、ファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフ、カバーをすべて取り付けて、サーバーを操作してください。適切な冷却メカニズムがない状態で操作すると、サーバーのコンポーネントに重大な損傷が生じることがあります。

---

1. 接地済みの AC 電源コードを、サーバーの背面パネルにある AC 電源コネクタと接地済みの AC 電源コンセントに差し込みます。

スタンバイ電源モードでは、前面パネルの電源/OK LED が点滅し、SP に電源が供給されていることを示します。図 1-3 および表 1-2 を参照してください。



図 1-3 前面パネル

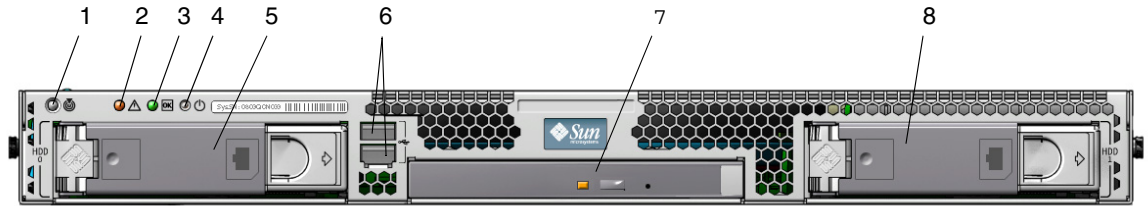


表 1-2 前面パネル

ラベル	ボタン/LED/ポート	ラベル	ボタン/LED/ポート
1	位置特定 LED	5	SATA ハードディスクドライブ 0 (オプション)
2	障害 LED	6	USB 2.0 コネクタ (2)
3	電源/OK LED	7	DVD ドライブ (オプション)
4	電源ボタン	8	SATA ハードディスクドライブ 1 (オプション)

2. 次に、第 2 章の説明に従って、ソフトウェアの初期セットアップ作業を行います。

**注** - この時点では、スタンバイ電源がサービスプロセッサと電源ファンのみに供給されます。本書の第 2 章に進み、初期構成を開始してください。プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールする準備が整うまで、主電源をサーバーのほかの部分には入れないでください。

## ▼ 主電源モードで電源を投入する

すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入するには、次の手順に従います。

1. 電源コードが接続され、スタンバイ電源がオンの状態であることを確認します。  
スタンバイ電源モードでは、前面パネルの電源/OK LED が点滅します。図 1-3 を参照してください。
2. サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンを、金属以外の先のとがったもので押します。  
主電源がサーバー全体に供給されると、電源ボタンのとなりにある電源/OK LED が点灯し続けます。

---

**注** – サーバーの電源を初めて投入すると、電源投入時の自己診断テスト (POST) が実行されます。このテストが完了するまで、1 分ほどかかることがあります。

---

## ▼ 主電源モードで電源を切断する

主電源モードでサーバーの電源を切断するには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。

- 適切な順序でのシャットダウン：サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンを、金属以外の先のとがったもので押します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効な OS を稼働していないサーバーは、即座にスタンバイ電源モードにシャットダウンされます。
- 緊急シャットダウン：電源ボタンを 4 秒間押し続けると、主電源が切断されスタンバイ電源モードになります。主電源が切断されると、前面パネルにある電源/OK LED が点滅し、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。



---

**注意** – サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーの背面パネルから AC 電源コードを取り外します。

---

---

## セットアップのトラブルシューティングとサポート

この節には、サーバーに関連する軽度の問題のトラブルシューティングに役立つ情報が含まれています。この節では、次の項目について説明します。

- 「Sun Fire X2250 サーバーのセットアップのトラブルシューティング」(9 ページ)
- 「サポートの連絡先」(11 ページ)

# Sun Fire X2250 サーバーのセットアップのトラブルシューティング

サーバーの設置中に問題が発生した場合は、表 1-3 のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

表 1-3      トラブルシューティングの手順

問題	問題への対処方法
サーバーの電源がオンなのに、モニターの電源がオンにならない。	<ul style="list-style-type: none"><li>• モニターの電源ボタンがオンになっていることを確認してください。</li><li>• モニターの電源コードが電源コンセントに接続されていることを確認してください。</li><li>• 電源コンセントに電力が供給されていることを確認してください。確認するには、別のデバイスを差し込んでテストしてください。</li></ul>
取り出しボタンを押したときに、CD または DVD をメディアトレイから取り出せない。	<ul style="list-style-type: none"><li>• マウスを移動させるか、キーボード上のいずれかのキーを押してください。ドライブが低消費電力モードになっていることがあります。</li><li>• サーバーにインストールされているユーティリティソフトウェアを使用して、CD を取り出してください。</li><li>• デバイス内のメディアが使用中でなく、オペレーティングシステムによってマウントされていないことを確認してください。</li></ul>
モニター画面にビデオが表示されない。	<ul style="list-style-type: none"><li>• モニターケーブルがビデオコネクタに接続されていることを確認してください。</li><li>• モニターが、別のシステムに接続された場合に動作することを確認してください。</li><li>• 別のモニターがある場合は、そのモニターを元のシステムに接続して動作するかどうかを確認してください。</li><li>• 電源投入時の自己診断テスト (POST) および BIOS の完了後に、モニターにビデオ出力が表示されなくなり、点滅するカーソルのみが表示される場合は、オペレーティングシステムの構成を確認して、シリアル回線上で排他的に出力をリダイレクトするように構成されているかどうかを調べてください。</li></ul>
前面パネルにある電源ボタンが押されているのに、サーバーの電源がオンにならない。	<p>Sun のサービス担当者に連絡する必要がある場合は、次の事項を確認し、状況を書き留めておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• システムの前面パネルにある電源 / OK LED が点灯していることを確認してください (電源コードが、システムおよび接地電源コンセントに接続されていることを確認してください)。</li><li>• 電源コンセントに電力が供給されていることを確認してください。確認するには、別のデバイスを差し込んでテストしてください。</li><li>• 電源の投入後 5 分以内にモニターが同期することを確認してください (モニターの緑色の LED が点滅を停止し、点灯状態になります)。</li></ul>

表 1-3      トラブルシューティングの手順 (続き)

問題	問題への対処方法
キーボードまたはマウスが操作に反応しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マウスおよびキーボードのケーブルが、サーバー上のオンボード USB 2.0 コネクタに接続していることを確認してください。</li> <li>• サーバーの電源がオンで、前面の電源 / OK LED が点灯していることを確認してください。</li> </ul>
サーバーが低消費電力モードのようだが、電源 / OK LED が点滅しない。	<p>すべてのサーバーコンポーネントが低消費電力モードのときは、電源 / OK LED が点滅します。テープドライブがサーバーに接続されている可能性があります。テープドライブは低消費電力モードにならないので、電源 / OK LED は点滅しません。</p>
サーバーがハングしたり、動かなくなったりする。マウスやキーボード、またはアプリケーションから応答がない。	<p>ネットワーク上の別のサーバーからシステムにアクセスしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 別のシステム上で、<b>ping</b> &lt;X2250 の IP アドレス&gt; と入力します。</li> <li>2. 応答が返されたら、telnet、ssh、または rlogin のいずれかを使用して Sun Fire X2250 サーバーにログインします。</li> <li>3. 正常にログインしたら、<b>ps</b> コマンドを使用して、実行中のプロセスを一覧表示します。</li> <li>4. <b>kill</b> &lt;プロセス ID&gt; コマンドを使用して、応答していないプロセスや実行されるべきでないプロセスを終了します。</li> <li>5. 該当する各プロセスを終了するたびに、Sun Fire X2250 サーバーの応答性を確認します。</li> </ol> <p>上の手順を使用して問題を解決できない場合は、サーバーの電源を再投入します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源ボタンを押してサーバーの電源を切断してから、20 ～ 30 秒間待機します。</li> <li>2. もう一度電源ボタンを押して、システムの電源を再投入します。</li> </ol>
<p><b>注</b> – トラブルシューティングに関する追加情報については、『Sun Fire X2250 Server Service Manual (Sun Fire X2250 サーバーサービスマニュアル)』(820-4593) を参照してください。</p>	

## サポートの連絡先

この章のトラブルシューティングの手順を使用しても問題を解決できない場合は、表 1-4 を使用して、サポート担当者とのやり取りに必要な可能性がある情報を収集してください。表 1-5 には、Sun のテクニカルサポートの Web サイトおよび電話番号が一覧表示されています。

表 1-4 サポートに必要なシステム情報

必要なシステム構成情報	お客様の情報
Sun サービス契約番号	
システムモデル	
オペレーティング環境	
システムのシリアル番号	
システムに接続されている周辺装置	
お客様の電子メールアドレスと電話番号、および代理の連絡先 システムの設置場所の住所	
スーパーユーザーパスワード	
問題の概要と、問題が発生したときに実行した操作内容	
その他の役に立つ情報	
IP アドレス	
サーバー名 (システムのホスト名)	
ネットワークまたはインターネットのドメインネーム	
プロキシサーバー構成	

表 1-5 Sun テクニカルサポートの連絡先

---

サーバーのドキュメントおよびサポートリソース URL または電話番号

---

Sun Fire X2250 サーバーのすべての最新ドキュメントの PDF ファイル。 <http://docs.sun.com>

Solaris™ 10 およびその他のソフトウェアのドキュメント。この Web サイトは完全な検索機能を備えています。 <http://docs.sun.com/documentation/>

ディスカッションおよびトラブルシューティングのフォーラム。 <http://supportforum.sun.com/>

---

表 1-5 Sun テクニカルサポートの連絡先 (続き)

サーバーのドキュメントおよびサポートリソース	URL または電話番号
すべての Sun 製品に関するサポート、診断ツール、および警告。	<a href="http://www.sun.com/bigadmin/">http://www.sun.com/bigadmin/</a>
SunSolve <sup>SM</sup> Web サイト。ソフトウェアパッチへのリンクが含まれています。一部のシステムの仕様、トラブルシューティング、および保守の情報、その他のツールが一覧表示されます。	<a href="http://www.sunsolve.sun.com/handbook_pub/">http://www.sunsolve.sun.com/handbook_pub/</a>
SunService <sup>SM</sup> サポートの電話番号。	1-800-872-4786 (1-800-USA-4Sun)、オプション 1 を選択します
各国の SunService サポートの電話番号。	<a href="http://www.sun.com/service/contacting/solution.html">http://www.sun.com/service/contacting/solution.html</a>
保証および契約サポートの連絡先。その他のサービスツールにリンクします。	<a href="http://www.sun.com/service/warrantiescontracts/">http://www.sun.com/service/warrantiescontracts/</a>
すべての Sun 製品の保証。	<a href="http://www.sun.com/service/support/warranty">http://www.sun.com/service/support/warranty</a>

## Sun Fire X2250 サーバーソフトウェア のセットアップ

---

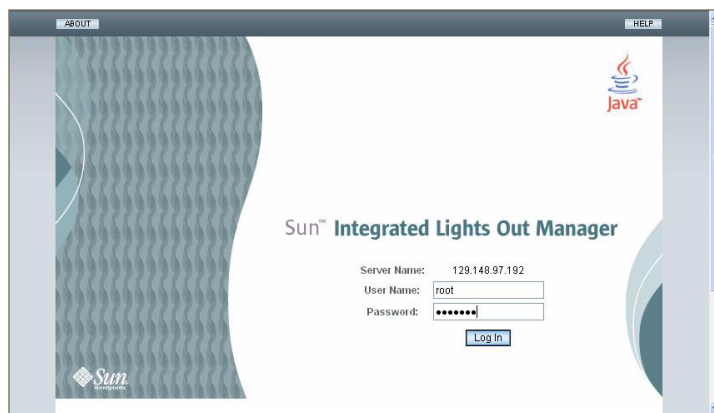
この章では、サーバーのサービスプロセッサおよび Integrated Lights Out Manager ソフトウェアの初期セットアップの作業について説明します。この章では、次の項目について説明します。

- 「Integrated Lights Out Manager の概要」(14 ページ)
- 「ILOM サービスプロセッサへの接続」(16 ページ)
- 「プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ」(24 ページ)

# Integrated Lights Out Manager の概要

Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、サーバー管理用の高機能ツールです。

図 2-1 Integrated Lights Out Manager のログインページ



ILOM は、4 つのコンポーネントから構成されています。そのうちの 3 つのコンポーネントをホストサーバー上に、1 つをホストサーバーにアクセスするクライアントシステム上に配置します。4 つのコンポーネントは、次のとおりです。

- **ILOM SP ハードウェア。** Sun Fire X2250 サーバーは、次の機能を実行するサービスプロセッサを搭載しています。
  - ファン、ディスクドライブ、電源など、サーバーのフィールド交換可能なコンポーネントの状態と構成を監視する。
  - 外部の端末またはローカルエリアネットワーク (LAN) へのシリアル接続および Ethernet 接続を提供する。
- **ILOM SP ファームウェア。** SP にプリインストールされているシステム管理ファームウェアアプリケーションのライブラリ。この ILOM ファームウェアは、オペレーティングシステムに依存しません。これらのファームウェアアプリケーションは、次のシステム管理インタフェースをサーバーに提供します。
  - ウェブベースのグラフィカルインタフェース
  - Secure Shell (SSH) コマンドラインインタフェース
  - IPMI v2.0コマンドインタフェース
  - シンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) v1、v2c、または v3 インタフェース



これらのインタフェースは、サービスプロセッサで同じ基本システム管理機能を呼び出すため、これらの ILOM インタフェースを 1 つ以上使用して、データセンター内で実行している他の管理インタフェースと統合できるようになります。

- リモートコンソールアプリケーション。リモートコンソールアプリケーションを使用すると、リモートクライアントはビデオコネクタに直接接続されている場合と同様にホストサーバーのグラフィカルコンソールを表示できます。リモートコンソールは、サーバーの VGA ビデオコネクタからの 1024 x 768 出力のミラーです。リモートのキーボード、マウス、CD ドライブ、またはディスクドライブが標準の USB デバイスとして表示されます。

---

**注** – クライアントシステム上にリモートコンソールアプリケーションは必要ありませんが、ウェブブラウザと Sun Java™ ランタイム環境バージョン 5.0 以降をクライアントシステム上にインストールする必要があります。Java は、<http://java.sun.com> から無料でダウンロードできます。

---

- クライアント側の Secure Shell アプリケーション。リモートの Secure Shell (SSH) から ILOM SP にアクセスするには、リモートのクライアントシステム (サーバー、ワークステーション、またはラップトップ) 上に Secure Shell 通信アプリケーションをインストールする必要があります。多くの Secure Shell 通信アプリケーションが、有償またはオープンソースで配布されています。オープンソースのクライアント側の SSH アプリケーションについては、<http://www.openssh.org> を参照してください。

サーバー上の ILOM ハードウェアおよびファームウェアには、現場で最もよく使われる構成を反映したデフォルト設定が使われています。これらのデフォルトを変更する必要は特にありません。

# ILOM サービスプロセッサへの接続

ILOM SP に接続して、初期セットアップと構成を行う方法は 2 つあります。次の手順のいずれかを選択します。

- 「シリアル接続を使用して ILOM に接続する」(16 ページ)
- 「Ethernet 接続を使用した ILOM への接続」(17 ページ)

## ▼ シリアル接続を使用して ILOM に接続する

この手順では、ILOM SP へのシリアル接続を確立し、ILOM の初期構成を行います。

---

**注** – この手順は、[第 1 章](#)の説明に従ってハードウェアの設置を完了し、サーバーにスタンバイ電源を供給していることを前提にしています。

---

1. ご使用の端末、ラップトップ、または端末サーバーが稼働していることを確認します。
2. 端末デバイス、あるいはラップトップまたは PC 上で実行しているターミナルエミュレーションソフトウェアを次のように構成します。
  - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
  - 9600 ボー
  - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
  - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
3. サーバーの後面パネルにある RJ-45 SERIAL MGT ポートと端末デバイスをシリアルケーブルで接続します。このポートの場所については、[図 1-2](#)を参照してください。
4. 端末デバイスで、Enter キーを押して、端末デバイスと ILOM SP との接続を確立します。

SP によって次のようなログインプロンプトが表示されます。

```
SUNSP0003BA84D777 login:
```

この例のログインプロンプトの意味は次のとおりです。

- 文字列 SUNSP はすべての SP に共通です。
- 0003BA84D777 は、特定の SP の Ethernet MAC アドレスです。このアドレスは各サーバーによって異なります。

## 5. ILOM にログインします。

a. デフォルトのユーザー名 (**root**) を入力します。

b. デフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、SP にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

これで、CLI コマンドを実行して、ILOM でサーバーのユーザーアカウント、ネットワーク設定、アクセスリスト、警告などを構成できるようになります。CLI コマンドの詳細な説明については、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188) を参照してください。

CLI を使用した静的ネットワークの構成手順については、「[静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成](#)」(21 ページ) を参照してください。

## 6. シリアルコンソールを起動するために、次のコマンドを入力します。

```
cd /SP/console
```

```
start
```

---

**注** – シリアルコンソールから SP CLI に戻るには、**Esc** (キーシーケンスを入力します)。

---

## 7. サーバーの構成後、「プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ」(24 ページ)に進みます。

# Ethernet 接続を使用した ILOM への接続

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) など、ILOM のすべての機能を使用するには、サーバーの Ethernet ポートをローカルエリアネットワーク (LAN) に接続し、Ethernet 接続を構成する必要があります。

ILOM は動的ホスト構成プロトコル (DHCP) と静的 IP アドレッシングをサポートしています。

- DHCP を使用して Ethernet 接続を構成する場合は、「[DHCP を使用して ILOM Ethernet 設定を構成する](#)」(18 ページ) を参照してください。
- 静的 IP アドレスを使用して Ethernet 接続を構成する場合は、「[静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成](#)」(21 ページ) を参照してください。

## 動的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成

DHCP を使用して Ethernet 設定を構成できます。

### ▼ DHCP を使用して ILOM Ethernet 設定を構成する

---

**注** – この手順は、[第 1 章](#)の説明に従ってハードウェアの設置を完了し、サーバーにスタンバイ電源を適用していることを前提にしています。

---

1. システム管理者に、DHCP サーバーが、新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるように構成されていることを確認してください。
2. Ethernet ケーブルをサーバーの RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続します。[図 1-2](#) を参照してください。

ILOM SP が静的 IP アドレスを使用していない場合、MAC アドレスの ID を使用して DHCPDISCOVER パケットをブロードキャストします。LAN 上の DHCP サーバーは、IP アドレスなどの情報を含む DHCPOFFER パケットを返します。ILOM SP は、DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスの「リース」状況を管理します。
3. 次のいずれかの場所から ILOM SP の IP アドレスを取得します。今後の参照のために、その IP アドレスを記録します。
  - CLI コマンド: SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の IP アドレスが表示されます。[手順 4](#) に進みます。
  - システムの BIOS セットアップ画面: サーバーのブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」→「IP address (IP アドレス)」を選択します。[手順 4](#) に進みます。
  - DHCP サーバーのログファイル: この方法を使う場合は、次の[手順 a](#) から[手順 c](#)までを実行します。それ以外の場合は、[手順 4](#) まで進みます。
    - a. 次のいずれかの場所から ILOM SP の MAC アドレスを特定します。今後の参照のために、その MAC アドレスを記録します。
      - CLI コマンド: SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。
      - お客様情報シート: この文書は、サーバーに付属しています。

- システムの BIOS セットアップ画面: ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」→「MAC address (MAC アドレス)」を選択します。
- b. DHCP サーバーにログインし、DHCP ログファイルを確認します。

---

**注** – これらのログファイルは、オペレーティングシステムや DHCP サーバーが異なると、保存される場所も異なります。DHCP システム管理者に相談して、ログファイルの正しいパスを探してください。

---

- c. ログファイルから、ILOM SP の MAC アドレスに対応する IP アドレスを特定します。

通常、DHCP ログファイルのエントリは、次のようにコンマで区切られたフィールドを持つ個別の行です。

*ID, Date, Time, Description, IP Address, Host Name, MAC Address*

正しい DHCP ファイルエントリの MAC アドレス (7番目) フィールドで ILOM SP の MAC アドレスを探し、IP アドレス (5番目) フィールドの対応する値を記録します。これは、ILOM SP のシステム管理ファームウェアアプリケーションにアクセスするのに必要な IP アドレスです。

4. **手順 3** で入手した IP アドレスを使用して ILOM SP とのセッションを開きます。

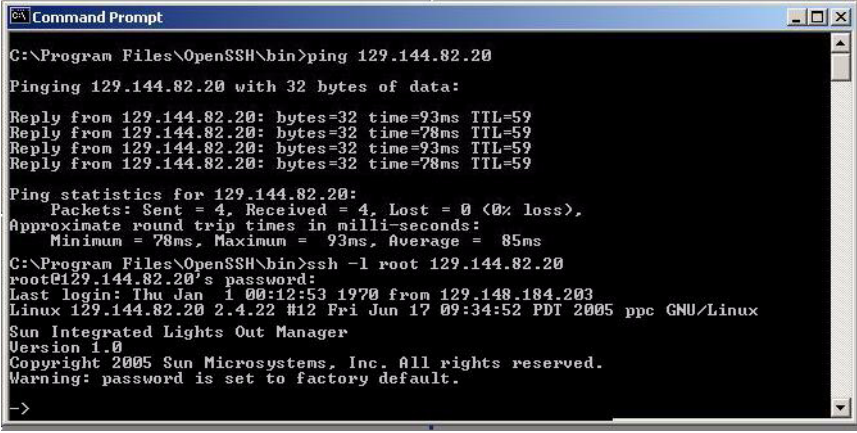
CLI または GUI インタフェースを使用できます。

- ILOM SP CLI への Secure Shell (SSH) 接続を確立するには、SSH アプリケーションで適切な接続コマンドを入力します。たとえば、DHCP が割り当てた IP アドレス、129.144.82.20 を使用して SP に接続するには、次のコマンドを入力します。

```
# ssh -l root 129.144.82.20
```

デフォルトのユーザー名は **root** で、ssh コマンドに含まれていました。入力を求められたら、SP のデフォルトのパスワード **changeme** を入力します。その後、コマンドを入力してユーザーアカウントの管理やサーバー上のデバイスのステータスの監視を行うことができます。図 2-2 の例を参照してください。

図 2-2 SSH コマンドラインインタフェースを使用してセッションを開く



```
C:\Program Files\OpenSSH\bin>ping 129.144.82.20
Pinging 129.144.82.20 with 32 bytes of data:
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=93ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=78ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=93ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=78ms TTL=59

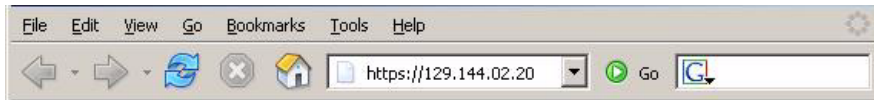
Ping statistics for 129.144.82.20:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 78ms, Maximum = 93ms, Average = 85ms

C:\Program Files\OpenSSH\bin>ssh -l root 129.144.82.20
root@129.144.82.20's password:
Last login: Thu Jan 1 00:12:53 1970 from 129.148.184.203
Linux 129.144.82.20 2.4.22 #12 Fri Jun 17 09:34:52 PDT 2005 ppc GNU/Linux
Sun Integrated Lights Out Manager
Version 1.0
Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.
->
```

- ILOM SP Web インタフェースへの接続を確立するには、ブラウザのアドレスボックスに ILOM SP の IP アドレスを入力して Enter キーを押します。

たとえば、ILOM SP の IP アドレスが 129.144.02.20 の場合、図 2-3 に示すように入力します。最初の Web ページでは、デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** の入力を求めるプロンプトが表示されます。

図 2-3 Web インタフェースを使用してセッションを開く



5. CLI または Web インタフェースでユーザー名とパスワードを入力した後、インタフェースを使用して ILOM SP を構成できます。

システムの詳細な構成手順については、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188)を参照してください。

6. 「プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ」(24 ページ)に進みます。

## 静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成

DHCP サーバーから ILOM SP に IP アドレスを割り当てる代わりに、静的 IP アドレスを割り当てることもできます。この設定には、Web インタフェース、ネットワークまたはシリアルポート経由の CLI、またはサーバーの BIOS セットアップユーティリティを使用できます。次の手順のいずれかを選択します。

- 「Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを構成する」(21 ページ)
- 「CLI を使用して静的 IP アドレスを構成する」(22 ページ)
- 「BIOS セットアップユーティリティを使用して静的 IP アドレスを構成する」(23 ページ)

### ▼ Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを構成する

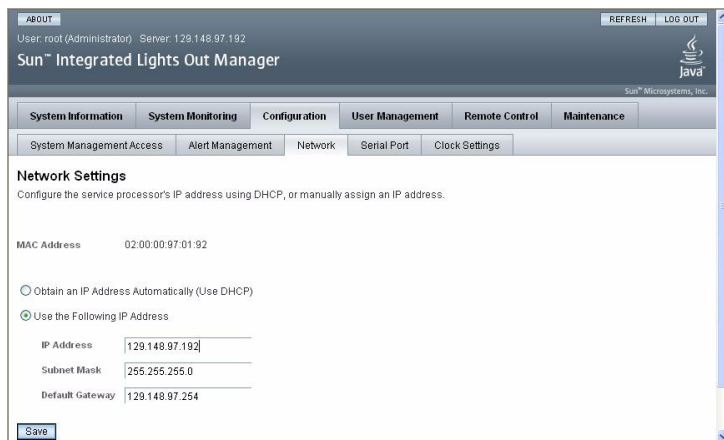
1. 次のいずれかの場所から ILOM SP の現在の IP アドレスを特定します。
  - CLI コマンド: SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド **show /SP/network** を入力すると、現在の IP アドレスが表示されます。
  - システムの BIOS セットアップ画面: ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」→「IP address (IP アドレス)」を選択します。
2. リモートシステム上で実行中のウェブブラウザを使用して、ILOM SP に接続します。

ILOM SP Web インタフェースへの接続を確立するには、ブラウザのアドレスボックスに ILOM SP の IP アドレスを入力して Enter キーを押します。例については、[図 2-3](#) を参照してください。

ILOM Web インタフェースのログイン画面が表示されます。
3. デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** を使用して、Web インタフェースにログインします。
4. 「Configuration (構成)」タブとその「Network (ネットワーク)」タブを選択して、ご使用の ILOM SP の現在のネットワーク構成に関する情報を表示します。[図 2-4](#) を参照してください。

5. 「Use the Following IP Address (次のIPアドレスを使用する)」 オプションをクリックして、静的 IP アドレスの情報を入力します。図 2-4 の例を参照してください。

図 2-4 Integrated Lights Out Manager のネットワーク設定ページ



## ▼ CLI を使用して静的 IP アドレスを構成する

1. SSH を使用するか、シリアルポートに接続して、CLI にログインします。

ILOM CLI への Secure Shell (SSH) 接続を確立するには、SSH アプリケーションで適切な接続コマンドを入力します。たとえば、DHCP が割り当てた IP アドレス、129.144.82.20 を使用して SP に接続するには、次のコマンドを入力します。

```
# ssh -l root 129.144.82.20
```

図 2-2 の例を参照してください。

2. 次の例の該当する箇所に自分のアドレスを使用して、次のコマンドを入力します。次のコマンドに含まれるアドレスは例です。

```
cd /SP/network
```

```
set pendingipaddress=129.144.82.26
```

```
set pendingipnetmask=255.255.255.0
```

```
set pendingipgateway=129.144.82.254
```

```
set pendingipdiscovery=static
```

```
set commitpending=true
```



## ▼ BIOS セットアップユーティリティを使用して 静的 IP アドレスを構成する

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」を選択します。
3. 「Advanced (詳細)」メニュー画面で、「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」を選択します。
4. 「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」画面から「LAN Configuration (LAN 構成)」を選択します。
5. 「LAN Configuration (LAN 構成)」画面で、「IP Address (IP アドレス)」を選択します。
6. 「IP Address (IP アドレス)」画面で、「IP Address Mode (IP アドレスモード)」を選択します。
7. IP Address Mode (IP アドレスモード) 画面で、「Static (静的)」を選択します。
8. 「IP Address (IP アドレス)」フィールドに静的 IP アドレスを入力します。  
「ESC」を選択して戻り、サブネットマスクとデフォルトのゲートウェイの設定をそれぞれのフィールドに入力します。
9. 「Commit (確定)」を選択し、Enter キーを押して、変更を確定します。
10. 「Refresh (リフレッシュ)」を選択し、Enter キーを押して、「Current IP address in BMC (BMC の現在の IP アドレス)」フィールドに新しい静的 IP 設定を表示します。
11. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
12. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了します。

---

# プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ

ILOM SP のネットワーク構成を行ったら、プリインストールされたオペレーティングシステムを構成するか、サポートされている Solaris、Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。

- サーバーに Solaris 10 オペレーティングシステムがプリインストールされている場合、サーバー上での Solaris OS の構成手順については、「[プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの構成](#)」(25 ページ)を参照してください。
- サポートされている Solaris、Windows、または Linux OS と必要なドライバの詳細なインストール手順については、『*Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102) または 『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3357)を参照してください。
- サーバーでサポートされている Solaris、Windows、Linux の各 OS の手動でのインストールおよび構成については、『*Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』を参照してください。
- サーバーでサポートされている Solaris、Windows、Linux の各 OS の、Sun Installation Assistant (SIA) を使用したインストールおよび構成については、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』を参照してください。SIA では、SIA メディアを起動し、画面の指示に従って操作するだけで、OS、適切なドライバ、および必要に応じて追加のシステムソフトウェアをインストールできます。
- このサーバーに固有の OS に関するその他の注意点については、『*Sun Fire X2250 Server Product Notes* (Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって)』(820-5107)を参照してください。

Sun Fire X2250 サーバーにプリインストールされているオペレーティングシステム(OS)を使用しない場合は、この時点でご希望の OS をインストールしてください。Solaris 10 OS がプライマリブートドライブにプリインストールされている場合は、Tools and Drivers CD に含まれている Erase Primary Boot Disk (プライマリブートディスクの消去)ユーティリティを使用して削除する必要があります。

プライマリブートディスクの消去とオペレーティングシステムのインストールについては、『*Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102)を参照してください。

# プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの構成

---

この章では、サーバーにプリインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) の構成手順を説明します。プリインストールされているバージョンは Solaris 10 8/07 以降です。

---

## 開始前のご注意

プリインストールされた OS の構成を行う前に、次の作業を行う必要があります。

1. 「[ILOM サービスプロセッサへの接続](#)」(16 ページ) の手順に従って、サーバーの ILOM SP (Integrated Lights Out Manager サービスプロセッサ) の初期構成を行い、サーバーのネットワーク設定を決めます。
2. 「[インストールのためのワークシート](#)」(26 ページ) に示されている、構成に必要な情報を収集します。
3. コンソール出力を選択します。詳細については、「[コンソール出力の選択](#)」(29 ページ) を参照してください。

# インストールのためのワークシート

表 3-1 のワークシートを使用して、プリインストールされている Solaris 10 OS の構成に必要な情報を収集します。アプリケーションに適合する情報のみを収集してください。

表 3-1 インストールのためのワークシート

インストールのための情報		説明または例	回答: デフォルトはアスタリスク (*) で示されます。
言語		Solaris 10 ソフトウェアに使用できる言語をリストから選択します。	英語*
地域		サポート対象の地域のリストから自分の地域を選択します。	英語 (C-7 ビット ASCII)*
端末		使用可能な端末タイプのリストから、使用している端末のタイプを選択します。	
ネットワーク接続		システムはネットワークに接続されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークに接続されている</li> <li>ネットワークに接続されていない*</li> </ul>
DHCP		ネットワークインタフェースの構成に、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用できますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい</li> <li>いいえ*</li> </ul>
DHCP を使用していない場合、ネットワークアドレスを記載してください。	IP アドレス	DHCP を使用していない場合、システムに IP アドレスを割り当てます。 例: 129.200.9.1	
	サブネット	DHCP を使用していない場合、システムはサブネットの一部ですか？ システムがサブネットの一部である場合、サブネットのネットマスクを入力します。 例: 255.255.0.0	255.255.0.0*
	IPv6	このマシンで IPv6 を有効にしますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい</li> <li>いいえ*</li> </ul>
ホスト名		システムに指定したホスト名	
Kerberos		このマシンで Kerberos セキュリティを構成しますか？ セキュリティを構成する場合、次の情報を収集します。 デフォルトレルム: 管理サーバー: 第 1 KDC: (省略可) その他の KDC:	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい</li> <li>いいえ*</li> </ul>

表 3-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのための情報		説明または例	回答: デフォルトはアスタリスク (*) で示されます。
ネームサービス: システムでネームサービスを使用する場合、次の情報を指定します。	ネームサービス	このシステムで使うネームサービスを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NIS+</li> <li>• NIS</li> <li>• DNS</li> <li>• LDAP</li> <li>• なし*</li> </ul>
	ドメイン ネーム	システムが含まれているドメインの名前を入力します。	
	NIS+ と NIS	自分でネームサーバーを指定しますか? それともインストールプログラムによって自動的に指定しますか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IP アドレスを指定</li> <li>• 自動的に指定*</li> </ul>
	DNS	DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 個は必ず入力してください (最高 3 個)。 DNS の問い合わせ時に検索するドメインのリストも入力できます。  検索ドメイン: 検索ドメイン: 検索ドメイン:	
	LDAP	LDAP プロファイルについて次の情報を入力します。 プロファイル名: プロファイルサーバー: LDAP プロファイルにプロキシ認証レベルを指定する場合、次の情報を記載してください。 プロキシバインド識別名: プロキシバインドパスワード:	

表 3-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのための情報	説明または例	回答: デフォルトはアスタリスク (*) で示されます。
デフォルトルート	<p>自分でデフォルトルート IP アドレスを指定しますか？それとも Solaris インストールプログラムによって自動的に指定しますか？</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジの役目を果たします。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する固有の数字です。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムのリブート時に、指定した IP アドレスがデフォルトのルートになります。</li> <li>Solaris インストールプログラムを使用して、IP アドレスを検出できます。ただし、ICMP ルーター発見プロトコルを使用してそれ自身を公開するルーターのあるサブネット上にシステムがあることが必要です。コマンドラインインタフェースを使用する場合、システムの起動時に IP アドレスが自動的に検出されます。</li> <li>この時点でルータを使用していないか、ソフトウェアによって IP アドレスを検出しない場合には、「なし」を選択することもできます。ソフトウェアは、リブート時に IP アドレスを自動的に検出しようとします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IP アドレスを指定</li> <li>IP アドレスを検出</li> <li>なし*</li> </ul>
タイムゾーン	デフォルトのタイムゾーンを指定する方法を選択してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域*</li> <li>GM からのオフセット</li> <li>タイムゾーンファイル</li> </ul>
ルートパスワード	システム用のルートパスワードを選択します。	

## コンソール出力の選択

SPARC® システムとは異なり、サーバーの電源を入れてもモニターにプリインストールされた Solaris 10 イメージの出力は表示されません。代わりに、プリインストールされたイメージの出力がシリアルコンソールに送られます。

オープンソースの GRUB ブートローダがデフォルトのブートローダです。ブートローダは、システムの電源を入れると最初に実行されるソフトウェアプログラムです。

次に示すように、GRUB メニューから、インストールプロセスを VGA 接続 (ビデオポート) に表示するオプションを選択できます。

```
*****
* Solaris 10 5/08 s10x_u5wos_10 X86 - Serial Port (ttya)          *
* Solaris 10 5/08 s10x_u5wos_10 X86 - Graphics Adapter          *
* Solaris failsafe                                               *
*                                                                 *
*                                                                 *
*                                                                 *
*                                                                 *
*                                                                 *
*****
```

---

**注** – 上の図の 1 行目は、デフォルトの起動モードを示しています。

---

### 例

出力をビデオポートに表示するには、次のオプションを選択します。

```
Solaris 10 5/08 s10x_u5wos_10 X86 - Graphics Adapter
```

---

# プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの構成

---

**注** – この手順を実行する前に、サービスプロセッサの設定を実行する必要があります。サービスプロセッサを設定していない場合は、「[開始前のご注意](#)」(25 ページ)を参照してください。

---

構成時は、「[インストールのためのワークシート](#)」(26 ページ)で収集した情報を使用します。

ILOM SP を構成した後、別のシステムからサーバーに接続し、プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) を構成するか、Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールできます。プリインストールされた OS は、次の 2 とおりの方法で設定できます。

- 「[サービスプロセッサの IP アドレスを使用してサーバーに接続する](#)」(31 ページ)  
この方法を使用する場合、最初にサービスプロセッサの IP アドレスを決定する必要があります。サーバーはネットワークに接続する必要があります。
- 「[端末プログラムを使用してサーバーに接続する](#)」(33 ページ)  
この方法を使用する場合、サービスプロセッサの IP アドレスを決定する必要はありませんが、サーバーとホストシステムのシリアルポート間のケーブル接続が必要になります。
- サポートされている Windows または Linux (および Solaris) OS と必須ドライバをインストールする場合は、『*Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102)を参照してください。
- このサーバーに固有の OS に関するその他の注意点については、『*Sun Fire X2250 Server Product Notes* (Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって)』(820-5107)を参照してください。



## ▼ サービスプロセッサの IP アドレスを使用してサーバーに接続する

---

注 – この手順は、サーバーがすでに Ethernet ケーブルによってネットワークに接続されていることを前提としています。

---

1. システムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。  
デフォルト設定は、9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フローコントロール無効です。
2. サーバーが Ethernet ケーブルによって接続されていない場合は、サービスプロセッサの IP アドレスを設定する必要があります。
  - a. 前面パネルのへこんだ電源ボタンを、金属以外の先の尖ったもので押して、サーバーの電源を入れます。  
OS の起動時に、電源投入時の自己診断テスト (POST) メッセージが画面に表示されます。
  - b. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティを初期化します。
  - c. メイン BIOS 画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」を選択します。
  - d. 「Advanced (詳細)」画面が表示されたら、「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」を選択します。
  - e. 「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」画面が表示されたら、「LAN Configuration (LAN 構成)」メニュー項目を選択します。
  - f. IP アドレスメニュー項目を選択します。  
サービスプロセッサの IP アドレスが次のフォーマットで表示されます。  
Current IP address in BMC: xxx.xxx.xxx.xxx
3. クライアントシステムを使用して、サービスプロセッサの IP アドレスへの Secure Shell (SSH) 接続を確立し、管理者としてログインします。  

```
ssh -l root sp_ip_address
```

  
password: **changeme**  
ILOM サービスプロセッサの CLI には、サーバーの背面にあるシリアル管理ポートを使用するか、ネットワークを介して SSH を使用して接続できます。

4. サーバーのシリアルポートにアクセスするには、ILOM サービスプロセッサの CLI に接続する必要があります。次のように入力します。

```
start /SP/console
```

SP コンソールを起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. **y** (はい) と入力し、Enter キーを押して、SP コンソールの起動操作を続行します。GRUB ブートローダのメニューが表示されます。

6. 前面パネルのへこんだ電源ボタンを、金属以外の先の尖ったもので押して、サーバーの電源を入れます。

OS の起動時に、POST メッセージが画面に表示されます。

7. Solaris の出力をサーバーの VGA (ビデオポート) に表示するには、「[コンソール出力の選択](#)」(29 ページ) に示されている GRUB ブートローダのメニューでビデオポートを選択する必要があります。

8. SP シリアルポートのデフォルト設定を変更した場合は、必ずデフォルト設定にリセットしてください。

9. Solaris 10 の画面の指示に従って操作します。

指示に対してシステムとネットワークの情報を入力するときに、「[インストールのためのワークシート](#)」(26 ページ)で収集した情報を使用してください。

表示される画面は、ネットワーク情報をサーバーに割り当てるために選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって異なります。

システム構成情報を入力すると、サーバーのブート処理が完了し、Solaris のログインプロンプトが表示されます。Solaris OS の構成については、『*Sun Fire X2250 Operating Systems Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102) を参照してください。

## ▼ 端末プログラムを使用してサーバーに接続する

1. ケーブルを使用して、サーバーのシリアルポートとホストシステムのシリアルポートを接続します。
2. システムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。  
デフォルト設定は、9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フローコントロール無効です。
3. 端末セッションを開始し、次のいずれかの操作を行って、シリアルポートの出力を取得します。
  - クライアントで動作する Solaris OS で、次のように入力します。  
`$tip -9600 /dev/ttya`
  - クライアントで動作する Windows、Hyperterminal などのプログラムを起動します。
  - クライアントで動作する Linux で、Minicom などのプログラムを起動します。Minicom は Linux ディストリビューションに含まれている、テキストベースのシリアル通信プログラムです。詳細については、Linux ディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。
4. サービスプロセッサに管理者としてログインします。たとえば、次のように入力します。  
`login: root`  
`password: changeme`
5. 次のコマンドを入力して、ILOM SP CLI を起動します。  
`start /SP/console`
6. 前面パネルのへこんだ電源ボタンを、金属以外の先の尖ったもので押して、サーバーの電源を入れます。  
OS の起動時に、POST メッセージが画面に表示されます。
7. Solaris 10 プリインストール画面の指示に従って操作します。  
指示に対してシステムとネットワークの情報を入力するときに、「[インストールのためのワークシート](#)」(26 ページ)で収集した情報を使用してください。

表示される画面は、ネットワーク情報をサーバーに割り当てるために選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって異なります。

システム構成情報を入力すると、サーバーのブート処理が完了し、Solaris のログインプロンプトが表示されます。Solaris OS の設定については、『*Sun Fire X2250 Operating Systems Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102) を参照してください。

---

# Solaris 10 オペレーティングシステムの ユーザー情報

この節には、Solaris 10 オペレーティングシステムに関する情報の参照先を示します。

## Solaris 10 OS のユーザーマニュアルへのアクセス

次の Web サイトで、Solaris 10 OS の各種ユーザードキュメントを参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

特に、次の Web サイトでは、「Solaris 10 Release and Installation Collection (Solaris 10 リリースおよびインストールコレクション)」にアクセスできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.1>

## Solaris 10 OS ソフトウェアのダウンロード

Solaris 10 OS のインストールが必要な場合、または OS を削除後に再インストールが必要になった場合は、次の URL から CD または DVD イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>

Solaris 10 OS の詳細なインストール手順については、『*Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide* (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102)を参照してください。

## Solaris 10 OS のトレーニング

Sun は、お客様のスケジュールと学習スタイルに応じて柔軟なトレーニングオプションを提供しています。講師によるクラス、Web ベースのオンラインのクラス、CD-ROM、ライブ仮想クラスなどのオプションがあります。Solaris 10 のトレーニングおよび認定オプションの一覧については、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/training/catalog/solaris10.html>